松尾社は梅津の西にあり。〔別雷　山は社のうしろの山なり、当社の明神の降臨の地なり、松尾山ともいふ〕

一条院の御ときはじめて松尾行幸侍けるに、うたふべき歌つかうまつるに

後　拾　ちはやふる松の尾山に陰みればけふぞちとせのはじめなりける

本社は祭る所二座にして、大山咋神市杵島姫なり。〔神秘あり〕大宝元年に秦都理といふ人社を建て、分土山より遷し奉る。〔鎮座記には、元明帝和銅二年四月十一日、始て加茂より山城国山田庄荒子山に伝へ奉る。加茂の丹塗の矢化して松尾の神と現ず。則秦良兼同く正光松尾の守護となる、今の社司の遠祖なり〕松尾七社〔月読社、櫟谷社、三の宮、宗像社、衣手社、四大神、当本社。（おの〳〵本殿の傍にあり）例祭は四月上の酉日、仁明帝承和四年に始る。神輿七基、西七条の御旅所より桂川を舟渡しにて祭礼あり。八月朔日には鳥井の傍にて相撲あり、京方嵯峨方とて東西に列す〕

四月八日松尾祭使に立て侍けるに、内侍は誰ぞと上卿の尋侍けるをりしも、郭公の鳴ければ

玉　葉　時鳥しめのあたりに啼声をきく我さへに名のりせよとや　後深草院少将内侍

舎利殿〔本社の南にあり。いにしへ此所に大木の杉あり、谷堂の延朗上人の曰、早くこれを伐べし、杉の木の中に奇瑞あらん。神官斧をうつに、忽ち本社の傍に倒る、杉の中より銅塔出て、舎利を盛、諸人奇異の思ひをなして、延朗の言を信じ、三層塔を建てこれを安置す〕